



アナポリス海軍兵学校の紹介



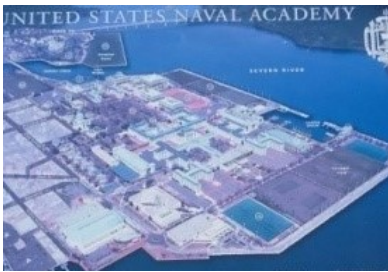
兵庫県隊友会姫路支部事務局長 古西 真吾

隊友会会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

平成 31 年（皇紀 2679 年）が始まりましたが如何お過ごしでしょうか。

さて、所用でアメリカ合衆国のワシントンDCに行く機会があり、兼ねてから訪れて見たいと思っていたアナポリス海軍兵学校を見学することができ、会員の皆様にも是非紹介したいと思い投稿しました。

正式名称は、アメリカ合衆国海軍兵学校（United States Naval Academy）、アメリカ海軍とアメリカ海兵隊の士官を養成する学校です。場所はメリーランド州のチェサピーク湾に面した昔ながらの素朴で風光明媚な港町であるアナポリス市にあり、日本では通称アナポリス海軍兵学校で親しまれています。海自出身会員はよくご存じだとは思いますが、陸、空自出身会員はあまり馴染みがないかと思われますので紹介したいと思います。



上空から見た全景



正 門

戦前は世界の三大海軍兵学校（米国アナポリス海軍兵学校、英国ダートマス海軍兵学校、大日本帝国江田島海軍兵学校）と謳われ、世界屈指の海軍士官養成のメッカとしてその名を轟かせていました。これは現在も変わっていません。ちなみに現在の江田島は戦後、海上自衛隊の幹部候補生学校として大日本帝国海軍の伝統を愚直なまでに墨守し、世界に通用する海自幹部（海軍士官）の教育・育成に努めています。

それではアナポリス海軍兵学校について紹介します。

風光明媚な構内を歩くと様々な建築様式によって海軍兵学校の長く興味深い歴史を見ることができます。

本校の前身である海軍学校は 1845 年アナポリスの旧フォート・セバーンに設立され 4 人の士官と 3 人の民間の教授とともに 50 人の生徒で開校しました。

1850 年に海軍学校はアメリカ海軍の大学である海軍兵学校になり、現在の 4 年生カリキュラムと夏の洋上訓練が制定され、南北戦争の間（1861～1865）、海軍兵学校はロードアイランド州のニューポートに移されましたが、1865 年に再びアナポリスに戻り現在に至っています。なお、海軍大学は現在もニューポートに本拠を置いています。

入学可能年齢は 17 歳から 23 歳までの未婚者であること等の条件があり設立当初、学生は男性のみでしたが 1976 以降は女性の入校を認めています。



卒業式での伝統である帽子投げ

兵学校の学生は Midshipman（士官候補生）と呼ばれ、4 年間の教育課程を経て卒業すると少尉に任官し、大半はアメリカ海軍又は海兵隊で少なくとも 5 年間は勤務しますが陸軍、空軍、沿岸警備隊に入隊も可能です。外国籍の学生は母国の軍に入隊し、実りある軍の任務に就きます。なお、卒業生には政治家、宇宙飛行士、学者、オリンピック選手等多数の有名人を輩出しています。

海上自衛隊からは 1 等海佐と 3 等海佐が 1 名ずつ連絡士官として派遣され、教官として勤務し

ています。逆にアメリカ海軍からも大尉が1名、江田島市の海上自衛隊幹部候補生学校に派遣されており、同様に教官として勤務しています。

校内の敷地は、338 エーカー（137 万平方メートル）、学生数は、4,400 人、そして教職員は約 600 人、現在 21 の専攻が設けられ、すべての卒業生に学士号（理学博士）が授与されます。

◎ 海軍兵学校の主な見どころ

・バンククロフトホール

世界で2番目に大きな寮で5マイル（約8キロ）の廊下と33エーカー（約13万平方メートル）の床面積があり、館内に記念館がある。

・メインチャペル

「海軍の大聖堂」として知られており、カトリックとプロテスタントの行事が行われる礼拝堂である。

・ジョン・ポール・ジョーンズ納骨堂

独立戦争の英雄であり、メインチャペルの地下に納骨されている。

・プレブルホール

アメリカ海軍兵学校博物館があつて米海軍と米海軍士官学校の歴史、歴代の空母の模型などが展示されている。

・アーメル・レフト・ウィッチビジターセンター

アナポリス港とチェサピーク湾を見渡し、館内には82席あるシアターでの映画上映、宇宙飛行士として活躍した卒業生が展示されている。



見学者専用の門

海軍兵学校の有料ガイドサービスは、ガイド付きのウォーキングツアーを毎日行っており、申し込みは電話及びインターネットを利用でき、校内のギフトショップでは米海軍のグッズ、贈り物、記念品等を販売しており、これらの収益はすべて学生たちのために使われています。

以上で概要の説明は終わりますが、今回の訪問で大変驚いたことがありました。それは校内のレストランで偶然にも

防衛大学校からの留学生2名とお会いすることができ、私も驚きましたが彼らも日本からの見学者は、ほとんど来ないということで大変驚いていました。更に私が海自出身者だということと再度の驚きでした。いろいろお話ししましたが彼らも慣れない異国での生活、それに防衛大学校からの代表として留学しており、言葉等も含めプレッシャー等、大変なご苦労があると痛感しました。また、現役の海上自衛官も教官として元気で勤務されていると聞き、大変頼もしく感じた次第です。話が尽きませんでした。時間の都合もあり、二人を励ましアナポリスを後にしました。

ワシントンDCは、日本からでは地球の裏側になり、かなり遠く成田空港から直行便で約13時間かかりますが会員の皆様も、もし機会あれば我々自衛隊出身者として参考になることが多々あると思いますので是非見学されることをお勧めします。

最後になりますが隊友会会員皆様のご健康と各支部の今後益々のご活躍並びにご発展を祈念いたします。

[参考文献] : ・ Navy Guide Annapolis (U.S. Naval Academy)
・ 海軍兵学校 (アメリカ合衆国) —Wikipedia